

意思を伝達する世界共通の文字

「情報」は伝達するものであり、記録された情報が後世に残るが、情報が記録されるために必要なものは何だろう。

それは情報を蓄積するための「文字」である。

人類は「言葉」を発明したが、音声としての言語は基本的に対話によるコミュニケーションでのみ有効であり、それを蓄積して遠方に伝えるためには「文字」として表現できる必要があり、「文字」こそ“人類最高の発明品”といえる。

日本人が普段使っている漢字・ひらがな・カタカナ・数字・アルファベットであるが、学術上は「表語文字」「表意文字」「音節文字」などに分類される(図1)。

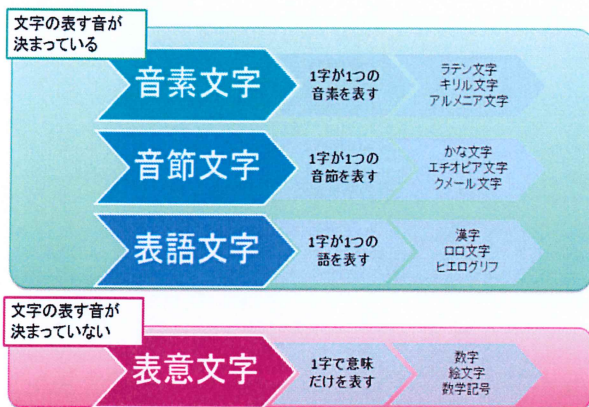


図1. 文字の分類

「表語文字」は1つ1つの文字が意味だけでなく発音も同時に表す体系で、その代表が「漢字」で例えば“本”1文字で英語の“book”を意味し“ほん”“もと”という発音も表す言葉になっている。

「表意文字」は1つ1つの文字が意味を表す体系でその代表が「アラビア数字」であり、0,1,2,3…は数を表す文字であり、文字の発音を意味するものではない。

「表音文字」は母音で音を区切る「音節文字」と、その言語を使う人が同じ音と認識する「音素文字」に分かれ、「音節文字」の代表が「ひらがな」「カタカナ」であり「音素文字」の代表が「アルファベット」である。

例えば、ひらがなの「か・き・く・け・こ」、カタカナの「カ・キ・ク・ケ・コ」は、ローマ字にすると「ka・ki・ku・ke・ko」の2文字になる。

現在、世界で使われている音節文字は「ひらがな」「カタカナ」だけである。

日本語は「表語文字」である“漢字”と「音節文字」である“ひらがな・カタカナ”を使いつつ、場合によっては「音素文字」の“アルファベット”を

入れても違和感がない非常に優れた文字言語であるが、日本語が難しい理由にもなっている(図2)。



図2. 日本語は難しい

音声を伝達する電話が発明された後、「自動車電話」が発売され、国内初の携帯電話「ショルダーホン」が1985年に発売されたが重量は3kgもあった(図3)。



図3. 国内初のショルダーホン

1991年に重量230gの「MOVA」(図4)が発売されたが携帯電話は一般には高嶺の花であり、1990年代中頃までは圧倒的な「ポケベル」(図5)時代であった。



図4. 軽量化された「MOVA」



図5. ポケットベル「ポケベル」

1968年にNTTによりサービスが開始され、当初は単に呼出し機能だけだったが、1980年中頃から数字が送信できるようになり、1990年代には女子高生を中心に爆発の人気となり、数字しか送れない不自由さが新たな文化を創り出し“084（おはよう）”“0833（おやすみ）”などの「語呂合わせ」文化を生み出した（図6）。



図6. ポケベルメッセージ

1998年、携帯電話によるインターネットサービス「iモード」が始まり、“ナニシテル”のカナ文字だけの無機質なメッセージだけでは相手がどんな温度感で送ってきたのか分からず戸惑ってしまう。

NTTドコモの栗田穰崇（図7）は12×12ドットのシンプルな図案に画面サイズや通信量が限定されても視覚的で円滑なコミュニケーションを可能にする「絵文字」を開発した（図8）。

デジタルコミュニケーションでは、文字だけの単文では文意の誤解が生じやすいために感情のニュアンスの付加が必要で、絵文字は時代の必然であった。



図7. 栗田穰崇



図8. ポケベルの♥絵文字

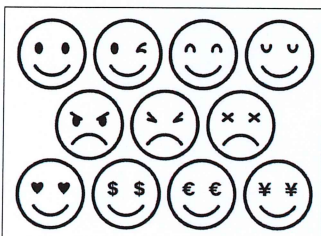


図9. スマイリーマーク

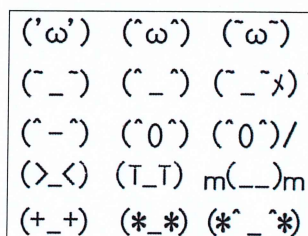


図10. 顔文字

アメリカでは、1980年代にコンピュータ技術者達の電子掲示板では記号を用いた「スマイリーマーク」（図9）が生まれ、日本のパソコン通信にも記号を駆使した「顔文字」（図10）文化があった。

人は純粋な言語情報よりも、そこに込められた感情情報を優先して受け取る傾向が強いため、文の最後に付けられた表情や♥はポジティブな感情の印で誤解を防いでいた。



図11. 絵文字

これが絵文字の前身であり、感情以外にも乗り物・食べ物・建物など日常の物事や情報を簡略化した楽しい絵文字が様々生み出された（図11）。

「絵文字」は、10代を中心に爆発的な人気を呼び2004年頃には日本中に定着した。

2009年に絵文字はUnicodeとして世界基準の汎用文字となり、2012年にスマホで使用可能になると世界中への普及が加速し、現在iPhone、Android、MacOS、Windowsにも標準搭載されている。

日本語には漢字・カナなど文字の種類が多く、文章に絵文字があっても違和感はないが、表意文字の文化圏の人々は最初はパズルや暗号のように並べて使われていたが、ピクトグラム（図12）を参考に創られた「絵文字」は“Emoji”となり、現在Unicodeに3000種類以上が登録され、もはや漫画・アニメと同様、世界共通言語となった（図13）。

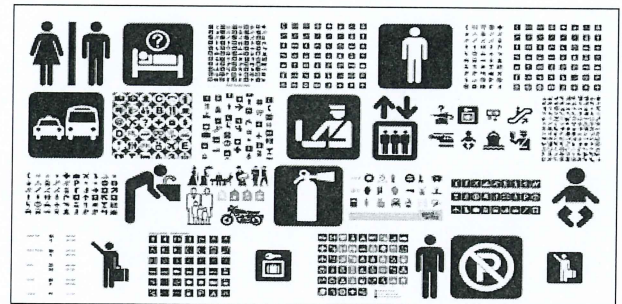


図12. ピクトグラム



図13. 世界共通言語となった絵文字